



中国日本商会
今ときコラムー55
中国雑談

キャッシュレス社会

直感的な印象として、北欧などの裕福な小国家がキャッシュレス社会を築くのは容易であろうが、世界最大の人口を擁する中国がキャッシュレス社会を築くことは、他のどの国よりも難易度が高い。しかし、中国におけるキャッシュレス社会の発展ぶりは、他の国々を不思議がらせるものであり、今年は特にそれが顕著になっている。

中国の二大モバイル決済手段であるアリペイ（支付宝）とウィーチャットペイ（微信支付）の普及により、中国におけるキャッシュレス社会の成長は大きく促進された。今は、大きなところでは企業、大型ショッピングモール、中国の外資系企業などの小売り大手、小さなところでは青果市場の露店、引いては物乞いまで、だれもがアリペイとウィーチャットペイを使用するようになっており、ほぼすべての場所に QR コードが貼ってある。

キャッシュレス社会は今や、どの水準にまで達しているのか？ 量的指標で検証する方法があるのだろうか？ もちろんある。

中国人民銀行（中央銀行）が公表したデータでは、2017 年 1 月から 7 月まで、個人の普通預金残高と流通している通貨の残高（現金）の合計金額が 3 兆元以上も大幅に減少した。個人の普通預金残高は 2017 年 1 月末の 24.98 兆元から 7 月末には 23.81 兆元に減少し、その差は 1.17 兆元だった。現金残高の方も大幅に減少し、2017 年 1 月末は 8.66 兆元だったが、7 月末はわずか 6.71 兆元で、1.95 兆元も減少した。これら二つを合計すると、わずか半年の間に 3.12 兆元も減少している。その中でも、現金の減少率は全体の 62.5% で、普通預金の減少率は全体の 37.5% だった。現金の減少幅は普通預金の減少幅より 25 ポイント高い。

では、普通預金で減少した 1.17 兆元はどこに行ったのか？ データによると、2017 年 7 月末の商業銀行の個人定期預金とその他の預金残高が 1 月より 1.22 兆元も増加している。ここで導き出される一つの推測は、普通預金の多くが定期預金に移されたということだ。普通預金の超低利率は預金者にとって何の魅力もない。投資チャネルが狭まりつつあるという状況下で、普通預金の多くが利率の少し高い定期預金に移行されたのだ。

2017 年上半期に減少した現金 1.95 兆元は、中国にキャッシュレス社会が到来したことを物語っている。では、キャッシュレス社会の具体的な発展速度はどれくらいのものなのか？ 中国人民銀行のデータによると、16 年 7 月末の個人普通預金と現金残高の総額は同年 1 月末よりもわずか 1500 億元少ないだけだったが、17 年は同じ時期で 3.1 兆元という大幅な減少に転じており、その減少額は 16 年同期の 20 倍以上だ。

今年 9 月にある機関が行った調査によると、アンケートに答えた中国人の 84% が「現金



を持って出かけなくても、別に不便はない」、「別に（現金を）持って出なくても、携帯があるし」と回答しているという。つまり、原因は事実上、中国のモバイル決済がすでに非常に発展していることにある。モバイル決済を使用する年齢層も急速に拡大しており、高齢者の中にもモバイル決済を使用する人が急速に増えている。

馬雲（ジャック・マー）氏は「5年以内に現金は消滅する」と語った。今になってみると、馬雲氏でさえ保守的すぎると言わざるを得ない。5年もしないうちに、中国は完全なキャッシュレス社会に入ることだろう。

（『日系企業リーダー必読』編集長 陳言）